



社協新時代への挑戦 ～市民とともに福祉のまちづくりへの挑戦（顔の見えるメッセージ）～

「社協新時代の挑戦①～地域福祉課編～」

社協新時代への挑戦は5回に渡って、市民とともに歩みたい・進めたい取組みを担当課長がお伝えします



地域福祉課長
柏 浩文

見守り・訪問活動の充実

札幌市外からの転入者等の増加により、65歳以上の1人暮らしや夫婦世帯が急増しています。これらの方々が地域で孤立したり、消費者被害にあうのを予防・早期発見するため、毎月3日を「見守り・訪問の日」と定め、見守り・訪問活動の重要性について啓発し、強化しています。見守りの“み”にちなんで3日を設定しています。地域によっては、3日以外にも見守り・訪問活動をしている地区福祉のまち推進センターや福祉推進委員会（単位町内会）等もありますが、最低、月1回は市内全域で見守り・訪問活動に取り組むよう各区社会福祉協議会を中心に広げていきたいと考えております。

「市民のみなさんとともにぬくもり
のあるまち札幌を目指します」

【日常的な見守り方法の例】

- ・毎日ゴミステーションで会うのに、姿をみかけない
- ・2～3日、夜になっても電気がつかない
- ・新聞や郵便物等が数日、たまっている
- ・朝になってもカーテンがあかない など

地域見守りサポーターの養成

1人でも多くの市民の方々に見守り・訪問活動への理解・参加を促進するため、これまで、仕事や学校等で活動できなかった方々を中心に地域見守りサポーターを養成しています。日常生活において、「あれ、どうしたのかな」、「ちょっと気になるなあ」など、さりげなく気にかけて、見守り、高齢者や障がいのある人などの異変に気づいた際に、民生委員児童委員や町内会役員、区役所等に連絡するのがサポーターの役割になります。

平成22～24年度の3年間で4,451人が養成講座を修了しています。当面は、サポーターを1万人にするのが目標です。養成講座は、札幌市ボランティア研修センター（中央区北1西9リンケージプラザ2階）において年3回開催する他、学校や町内会、企業等に出向く出張研修も実施しています。会場等を準備いただければ、無料で講師を派遣していますので、お気軽にご活用ください。修了された方には、マスコットキャラクター“まもりん”の修了証書付ストラップをお渡ししています。

